

対が叫ばれていたとき、その小規模であり道民には知られない問題、しかし地元民には重大な問題として道々士幌然別湖線建設に反対しようとする動きがありました。

この問題の道路は隣接の士幌町が相当以前より町道として山麓まで工事をし、昭和三十一年、関係三町長の同意を得たとして（鹿追町長は議会の同意を得ず）道に働き

かけ、道道に昇格（四十四年六月十八日）し、帯広土木現業所が工事を進めていました。十年も前のことでもあり、あの当時は自

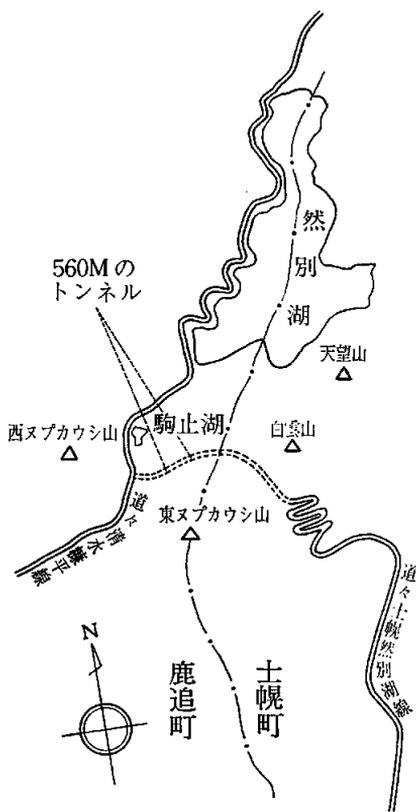


# 然別湖の自然を

陶

三

男



然保護などより開発先行の時代とも考えられ、それに隣の町のことでもあり鹿追町民としては関心はあっても、それに対して啓宣活動や阻止行動をするまでの動きはなかったのです。

遠くに開削された山肌が広がるにつれ、

はじめて道道建設工事を知った人もいます。すぐ近くに士幌町からの平坦で直線のアスファルト道路（道々本別新得線）があるのに車で五分か十分短縮するために、あれほど自然を破壊してまでも建設しなければならぬ道踏なのだろうか、と素朴な疑問を抱いている地元民もいました。

世に知れわたった観光地は急速に俗化される中で、自然美を備えたものが見直される時代となった昨今、地元民としても自然

美を誇る然別湖の奥座敷にあたる東ヌブカウシ山の日本庭園のような優雅な場所を、観光道路建設工事によって破壊されてしまつては、かけがえのないものを失うような気持で安閑としていられないとの意識が高まってきました。

動植物学者が実態調査をし、たびたび発表になっていきますのでご存知のとおり、然別湖周辺の山々は山頂に火口のない火山群として知られ、しかも風衝地という強風で寒冷な気象条件が海拔六〇〇—九〇〇mでありながら高山帯の景観を強めており、エゾマツ、トドマツ、シラカバ、ダケカンバ、ナナカマド、ハイマツ、シヤクナゲ、エゾイソツツジ、ウサギギタ、ミヤマリンドウ、コケモモ、ガンコウラン、ゴゼンタチバナ、

コマタサなど、学術的にも貴重な存在であるとされています。しかし、ちょっと見ただけでは東ヌブカウシ山は一面のササ原のなんのとりえもない山に見えるが、ちょっと山に入ればすばらしい植物があることに、いまの時代にと驚きさえ感じられます。そして、この地に高山の珍獣、氷河期の遺物といわれるナキウサギも生息しているのです。

ひとたび破壊すると復元困難なところであることは素人のものにとっても容易に理解できる場所であり、自然環境保全の重要さが叫ばれている今日、地元住民が立ち上がらなければならない使命がある、との話し合いから積極的に行動するために、会としてまず町民大会と呼びかけたところ、昭和四十七年九月八日、町民多数参加のもとに開催し、決議文の採決、署名をとることを決めました。抗議文は、つぎのとおりです。

自然は人類が造ったものではありません。一度破壊された自然は二度と復元することはできないものであります。現在工事が再開されようとしている「土幌高原道路」は、自然環境を破壊するものであると断じて過言ではありません。それがため今年度の工事を一時中止し、種々検討されているものと私達町民は理解

していたところがあります。ところが八月二十八日、鹿追町に対して工事再開の通知があり、鹿追町長としてもこの再開することに對しては同意していないことを聞くに及んで、一方的再開は住民不在の行政であり、暴挙であるといわざるを得ません。私達鹿追町民は、過去においても、そして現在も全く納得していませんのであります。「土幌高原道路」延長工事を現在の美しい自然を破壊してまで、

どうしても造らなければならない重要な道路なのかどうかを考えますと、大きな疑問を感じます。然別湖の観光開発であるというならば、現在の道々清水糠平線があります。産業開発という点から見れば、帯広方面へ向うのが道理であり、森林開発という点から見れば、資源が余りにも少ないのであります。自然保護という点から見れば、まさに言語道断、自然を見るも無残な形にしてなんの自然保護ということになりましょうか。私達鹿追町民といたしましては将来を思うとき、然別湖周辺のあの雄大な自然美を破壊することなく、いついつまでも守り続け後世に残し伝えることが、いま最も重要であると考え、命をかけても守り続ける決意であります。

いまや自然環境保全の重要性が叫ばれ

全国的世論となっています。このときに  
当り世論に逆行し地元住民の意志を無視  
する「土幌高原観光道路」の工事再開は、  
絶対に認められません。「土幌高原道路」  
工事再開を中止し、現在まで破壊した自  
然の保護策を講じる事を要求するととも  
に、工事再開に抗議します。

右本大会の名で決議します。

昭和四十七年九月八日

この抗議文を道知事、道議会議長、帯広  
土現所長に届けました。その後、九月十二  
日の道新の記事の一部に、

このほど道が『このままでは既設部分  
が荒れてしまうので、自然保護に配慮し  
たうえで工事再開』をと決めたもので、  
本年度は既開削部分の先から約四〇〇mの  
区間を約一千万円の工事で十月末までに  
造成する。このほか岩層がむき出しにな  
った既設部分のノリ面保護工事が行われ  
るが、工費六千万円で、九〇〇mの造成  
を予定していた本年度当初計画は、大幅  
に縮小されたため、貫通は当初の昭和五  
十年より一年ほど遅れそう。

九〇〇mを四〇〇mに縮小させることにな  
ったのは、道、十勝の自然保護協会と鹿追、  
土幌、上土幌三町のほか関係機関が参加し  
た現地踏査（四十七年六月）が実施され、  
十勝自然保護協会への建設工事内容説明

（四十七年七月）、関係三町の打合わせ（四  
十七年八月）など行われた結果によるもの  
で、地元住民感情としては、たとえ四〇〇m  
でも延長工事であるから反対の意志表示を  
したのです。

十月になって自然破壊の現状と道路予定  
線の植物を八ミリに撮り、全町民にPRを  
開始し署名運動を行いました。町民有権者  
の過半数の署名が得られたので、町議会に  
請願書を提出しました。

現在、建設工事が進められている道道  
土幌然別湖線は自然環境破壊がひどく、  
特に今年度からの建設予定地は天然記念  
物を含め、学術的にも貴重な動植物も多  
く、学者が指摘しているとおりその絶滅  
すら考えられます。この然別湖周辺の自  
然美をいついまでも後世に残し伝える  
ことが当町民としての義務であり使命で  
あると考え、昨年九月八日、緊急町民大  
会を開き、然別の自然を破壊する「土幌  
高原道路」建設にはあくまで反対すると  
の決議に基づき、関係機関に働きかけ、  
また昨年十月には環境庁長官、北海道知  
事、北海道議会議長に八〇〇余名の署名  
簿を添えて陳情して参りました。

さらに本年に入り署名活動を展開しま  
したところ、町民多数の署名と激励を受  
け、この問題についての町民の関心度は

非常に高く、反対の意志が強いものと確信致しております。

この時に当たり、鹿追町民の意志を代表する町議会において、この重要な問題を御審議のうえ、然別の自然を破壊する「土幌高原道路」の建設に反対する決議をして戴きたく、右、町民を代表し請願致します。

昭和四十八年四月二十一日

四月二十三日の臨時町議会で委員会付託になり、産業厚生、建設の阿委員会で審議され、五月三十一日の臨時町議会において「貴重な動植物の多い大雪山国立公園内に道路を建設することは、自然破壊につながる」として、建設反対を決議しました。

そして六月六日、第二回目の町民大会を開催し「地元住民の完全な理解を得ずして一方的に工事を再開する場合は、実力で阻止する」ことを決議し、決議文はただちに関係各機関に届けられ阻止行動を表明しました。

帯広土現では地元住民の同意を得るまでは延長工事は再開しない旨の発言があり、トンネル工法をもって地元住民の同意を得ようとし、四十八年十二月、ボーリングを行ない地質調査を終了、四十九年八月二十四日、帯広土現の説明を受けました。その説明の中で「自然破壊がひどいヘアピンカ

ーブをなくすため五六〇mのトンネルをつくりたいので理解してほしい」と、地質調査結果報告やトンネル工法の専門的な説明を受けましたが、「トンネルは延長工事の約五分の一の長さであり、それによって完全に自然が守れるのかどうか疑問である」という話し合いがくり返されました。その説明を受けて当会の役員会を開き協議の結果つぎの決議をいたしました。

昭和四十九年八月二十四日、帯広土木

現業所関係各位より、一般道々土幌然別湖線について、当会の役員若干名が説明を受け、本日役員会を開催し協議しました。土木現業所のご配慮とご努力に対しては敬意を表します。

しかし果たしてトンネルによって自然が守れるのかどうか、どの程度守れるのかなどについての説明が全くなく、疑問が残るばかりです。自然保護の専門的な立場からの説明を受け、当会員が安心できるような工事でなければなりません。

当会としては、日本庭園のような優雅なあの箇所を完全に守れるのでなければ道路建設について阻止しなければならぬと考えて行動することを決議します。

昭和四十九年九月六日

道議会に対しても陳情いたしました。昭和四十四年に道々昇格の壁は厚く工事中

止をする考えは全くなく、帯広土現にしても、いかにして地元住民の同意を得るかに苦慮しているのではないのでしょうか。

地元住民としては、あのすばらしい東ヌブカウシ山の景観を損うことなく峰越えの道路建設が果たして可能なかどうか、その説明を動植物学者にぜひお願いしたいも

のです。

とくに道によって計画されている道々土幌・然別湖線は、この貴重な地域の心臓部にあたる東ヌブカウシ山の北面の谷を予定線としており、この地域の自然破壊は明らかであつて切にその中止を希望するものがあります。

(鹿追自然を守る会)